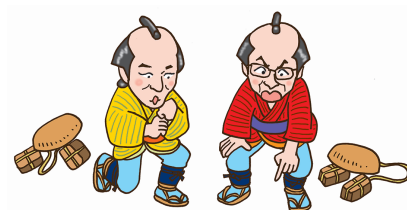




30年講座

連続講座 2

2016年7月24日(土) 13:30～
愛知県陶磁美術館 本館講堂
埋蔵文化財展「弥生への旅 朝日遺跡」



瀬戸市 鶯窯跡・桑下城跡

小澤一弘

(愛知県埋蔵文化財センター専門委員)

キーワード：乾燥施設 未焼成天目茶碗 通年生産 堀 菊花双鶴鏡

鶯窯跡 (瀬戸市岩屋町・鳥原町)

瀬戸市のほぼ中央に広がる品野盆地の南東域、水野川の支流の鳥原川と狭小な沖積地を見下ろせる標高 200m～237m の南側斜面に構築され、調査は 1998～2002 年にかけて、東海環状自動車道建設に伴う調査として実施された。調査の結果、窯体 1 基と作業場の跡 (工房跡・乾燥場) が 11 ケ所検出され、灰原を含め窯跡全体の 80% が調査された稀な例である。

窯体 (窯炉) は 1 基で、窯体の残存長 7m50 cm、窯体最大幅は焼成室で 3m を測る。改修を施しながら、築窯当初から最後まで同じ場所で、作業を続けており、3 段階の窯体が見られた。作業場の跡 (工房跡・乾燥場) は窯体を取り囲むように北側に 3 ケ所、東側に 4 ケ所、西側に 4 ケ所の合計 11 ケ所見られ、いずれも花崗岩の岩盤を掘削、削平し、平坦面を造り出しており谷側 (南) が開口部となっていた。

未焼成天目茶碗が出土したのは SX01-B (乾燥場) である。北壁に添うように並べられた上層の粘土群と、その下の下層から 5 枚重ねの未焼成天目茶碗群が検出された。上層の粘土群は、器種の特定までは至らなかったが碗が重ねて置かれた状態のものが 22 個出土した。下層の未焼成天目茶碗は平坦面の北壁中央に添って天目茶碗を 5 枚重ねたものが前列 8 個、後列 5 個置かれた状態で出土した。

膨大な量の遺物の大半は灰原よりの出土で出土遺物の総重量約 22,8 トン、総点数 772,974 点を数えた。製品 632,513 点、山茶碗 981 点、匣鉢 25,722 点、焼台 114,739 点である。

初めての出土例として未焼成天目茶碗 (1.2)、陶製茶臼 (28.30)、ミニチュア下臼 (29)、人面陶板 (32)、灰釉馬文鉢 (33)、灰釉鉄彩七宝文八稜皿 (34) がある。

次回は 8 月 7 日 (日) 「城山城跡」、「室遺跡」、「石座神社遺跡」

お問い合わせ先



公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24
Tel. 0567-67-4163 Fax. 0567-67-3054
<http://www.maibun.com/top/>



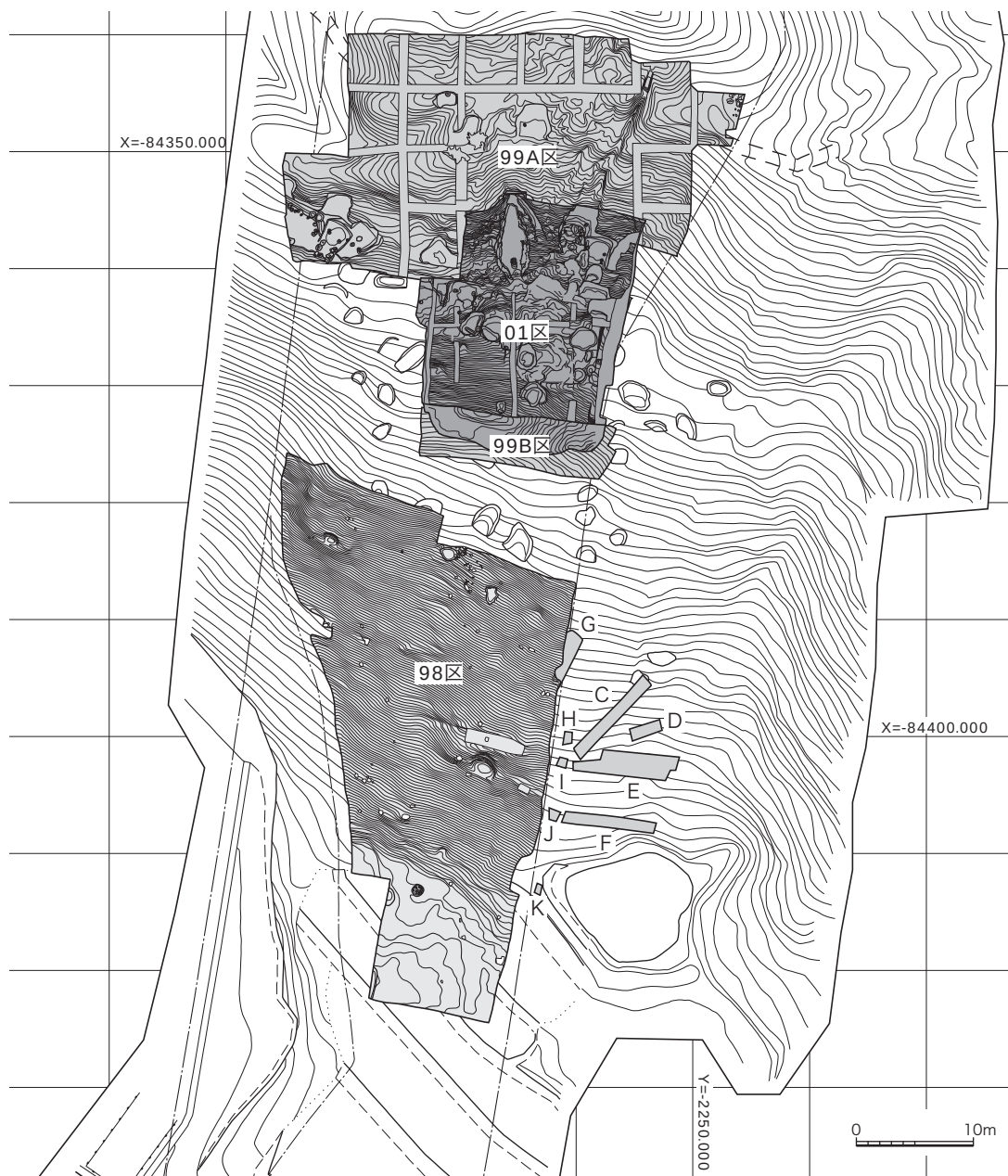


図1 鶯窠跡調査区位置図（1：600）

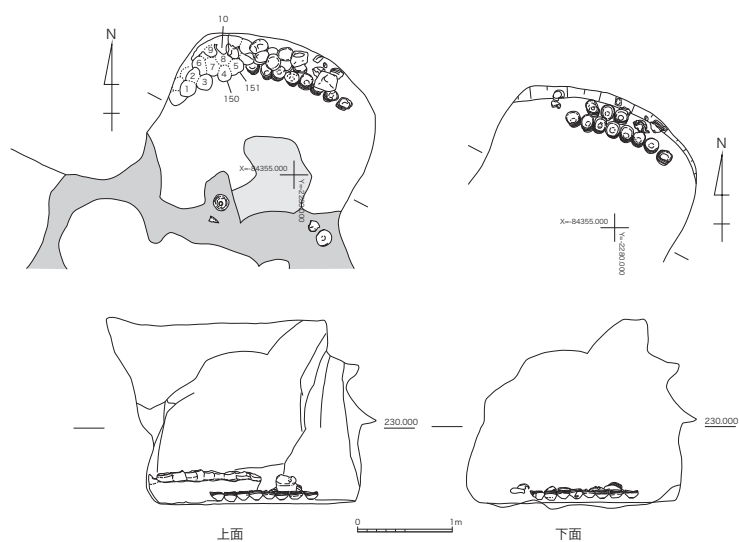


図2 SX01B未焼成天目茶碗出土状態図（1：80）

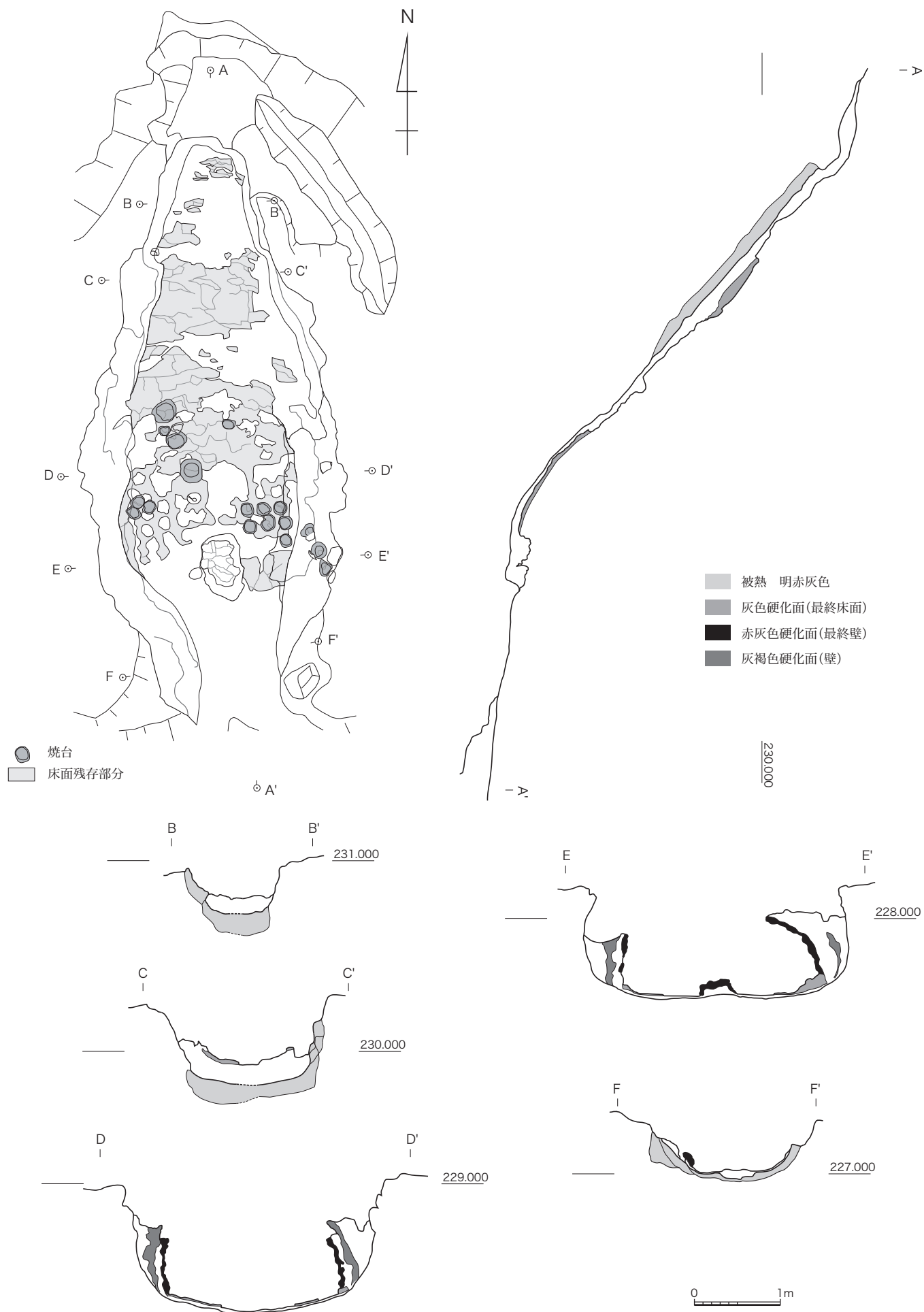


図3 SY01窯体平面図と断面図 (1:60)

桑下城跡（瀬戸市上品野町）

品野盆地の水野川と蟹川にはさまれた標高 210m の北東側丘陵に築かれた平山城で、水野川、街道を挟んで対岸となる南側丘陵上に品野城跡（標高 330m）があり、戦国期には尾張と三河の境界の城でもあり、要衝の地に築かれたのが桑下城であった。

屋敷地から居館へ、そして大規模な改修による城の変化が窺える桑下城は、北東側丘陵の西端の南側斜面から東に続く丘陵の南側に張り出した部分を主要な曲輪として利用し、規模は東西約 220m、南北約 100m、標高は 211m20 cm で、麓からの比高差は約 20m を測る。

調査は 2005～2010 年にかけて国道 363 号の改良工事に伴う事前調査として、『尾張古城絵図』に描かれた「本丸」の北側と本丸西側の「芝」の部分で 4 回調査。主な遺構として 2 次調査では本丸で掘立柱建物跡（1 間×4 間）、礎石建物跡（1 間×1 間）井戸、本丸を囲む堀は東と西は薬研堀、北側は箱堀で北西堀（箱堀）は東西 16m×4m40 cm、東堀から保存状態の良い菊花双鶴鏡が出土した。3 次調査では本丸西側の堀で 3 度の作り替えを確認し、最頂部の曲輪で櫓跡、土塁、番小屋 2 棟、南西部の曲輪で井戸、池、庭園跡を検出。4 次調査では西側屋敷地 09 区 9 曲輪は平坦面が 25m×10m の規模で東側、西側はそれぞれ土塁、石積などで明確に区切られている。整地層が確認でき、溝や建物跡等から少なくとも 3 段階に分けられた。2 段階に区画溝との掘立柱建物跡（2 間×3 間？）を検出し、区画溝と建物跡がほぼ重複する 42 m 程度の範囲に炭化物の集積層を確認した。この曲輪では使用痕のみられる碗、皿、播鉢類のほか茶入、動物形水滴（猪、兎、鳥）、特異な遺物として鋤形台 1 点が出土した。桑下城跡の存続時期は、出土遺物より古瀬戸後 IV 期段階頃（15 世紀後半以降）から造成と居住が始まり、大窯 1 段階（1480～1530）にかけて盛期を迎える。

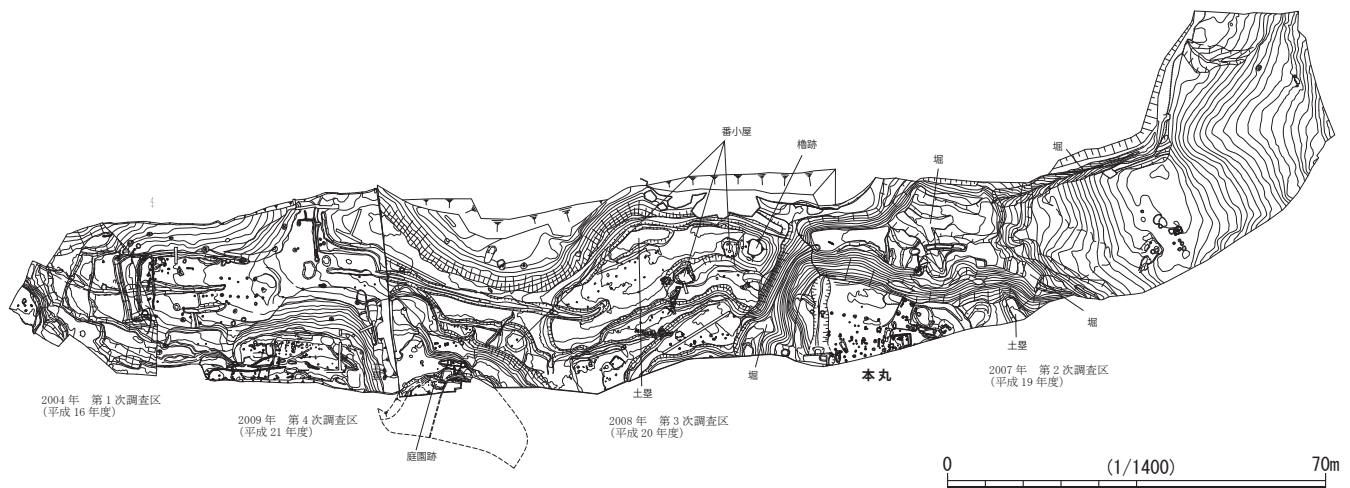


図 4 桑下城跡調査区全体図

表 1 桑下城 関連年表

西 暦	年 号	内 容	地 名	時 期
1467 ～69	応仁年中 文明頃	品野城主 長江氏の保護により品野窯中興の祖 十右衛門基村 開窯『陶器辞典』 落合城主 長江修理進利景、桑下に移る		古瀬戸後Ⅳ古期 1440～1460
1477	文明九年	守護所下津の城 焼ける 織田敏定清須城へ		古瀬戸後Ⅳ新段階 1460～1480
1481	文明十三年	伊勢神宮の門前町の山田に「瀬戸物や」		大窯第1段階 1480～1530
1482	文明十四年	品野の城主 長江（永井）民部、今村の城主松原広長と戦い勝利		
1483	文明十五年	守護 斯波義良よしすけ 尾張国下津に下る		
1495	明応四年	船田合戦 美濃国 美濃守護職土岐氏を巡る争い清須方敗北		
1518	永正十五年	定光寺祠堂帳『科野長江修理進』科野に有力者 長江氏 しどうちょう	科野	
1524	大永四年	織田信貞 津島の領主		大窯第2段階 1530～1560
1529	享禄二年頃	松平清康（家康の祖父）が攻略 シナ野の郷を奪取⇒落城 松平信定（清康の叔父）にシナ野の郷与る 桜井松平家『三河物語』 松平信定 — 松平清定 — 松平家次 — 松平忠吉		
1532	天文元年	清須方織田家と対抗できる力もつ 天文四年(1535)守山崩れ	シナ野	
1549	天文十八年	安城城陥落		
1550	天文十九年	以降尾張国内に今川軍勢が進出		
1552	天文二十一	今川軍は岩崎まで進出 織田信秀病氣没		
1553	天文二十二	伊勢神宮の門前町の山田に「瀬戸物座」		
1558	永禄元年	科野城家次 織田信長の攻撃受ける（今川氏支配）⇒撃退 今川義元 父子 ⇒松平家次に感状を 地誌『因幡志』寛政七年（1795） 「船越氏所蔵」とし「今川義元感状写」尾州科野城 「於尾州科野城合戦夜討謀略、 永禄元年四月朔日 今川義元 花押 船越五藤次殿」	科野城	大窯第3段階 1560～1590
1559	永禄二年	『武徳編年集成』 岩倉城攻略 岩倉織田方敗北		
1560	永禄三年	桶狭間の戦い 今川義元 死 [今川氏、品野城を放棄]		
1563	永禄六年	信長が瀬戸に出した 制札 瀬戸物は瀬戸の村へ諸郷の商人が買いにくる		
1572	元亀三年	尾張美濃の商人司伊藤惣十郎を任命 諸郷商人、座商人 商人司に統合か		
1573	天正元年	信長が久尻村における開窯を許可		大窯第4段階 1590～1610
1582	天正十年	本能寺の変 織田信長 死		
1606	慶長十一年	清洲藩主松平忠吉が春日井郡上品野村を吉田平内に与えた 『士林沂洞丁之部二』	上品野村	
1610	慶長十五年	尾張の国奉行が窯屋を瀬戸窯に召還⇒名古屋城築城		
1645 ～ 1654	正保 承応 期	古城絵図（蓬左文庫） 桑下城 春日井郡上品野村古城絵図 品野城 春日井郡上品野山城絵図	上品野村	品野地区の城
1670	寛文 頃	『寛文村々覚書』 上品野村 中品野村 下品野村 上品野村の項 「桑下古城跡壺ヶ所 東西三拾間南北四拾間 先年松平内膳家老 永井民部居城之由 今は芝山」	上品野村	品野城 桑下城 × 山崎城 中品野村 竹村孫七郎長方 （織田家臣）
1741	寛保元年	『武徳編年集成』 織田信長の攻撃が二回あった。その時の城主 永禄元年 科野の城主 松平家次 永禄二年城主松平信一		× 落合城 下品野村 戸田・長江・桜木
1792	寛政四年	春日井郡上品野村絵図 「絵図面別紙之覚」 品野城を桜井内膳正の居城 桑下城跡を内膳正の屋敷 桜井内膳正源信定の家老を長江刑部、長江民部		× 阿弥陀ヶ峰城 下品野村 永井（長江）民部 少輔利景
1792 ～ 1822	寛政四年 ～ 文政五年	『尾張徇行記』 村絵図では 桑下城跡を城根 といひ 桜井内膳正源信定の屋敷跡	上品野村	× 片草城？ 片草村 桜井十郎か

世



図5 上品野村古城絵図(蓬左文庫)トレース図